

学力向上の取り組みについて

**1 グローバル教育について
～英語教育の推進～**

2 ICT教育の取り組みについて

山武市教育委員会学校教育課

1 英語教育の推進について

(1) 異文化理解出前講座(小学生対象)

- ・外国の文化、習慣、背景、自国(日本)との違いを理解し、国際感覚とコミュニケーション能力を育むことを目的に実施。

◎外国人講師

◎低学年・中学年・高学年と3講座に分けて実施

世界を旅してみよう！ 【あいさつ】



外国のあいさつを覚えよう！

- 五カ国のあいさつ
- ボールリレー

世界を旅してみよう！ 【かんこう】



外国の人気スポット
を覚えよう！

- ・ 名所の文字数に合わせて
グループづくり
- ・ 五カ国の人気ランキング

世界を旅してみよう！ 【食べ物】※低学年のみ



外国のおいしい食べ物
を見てみよう！

- ・食べ物ダンス
- ・五カ国の人気ランキング

(2) 英語検定補助事業(中学生対象)

- ・市内全中学生を対象に実施。

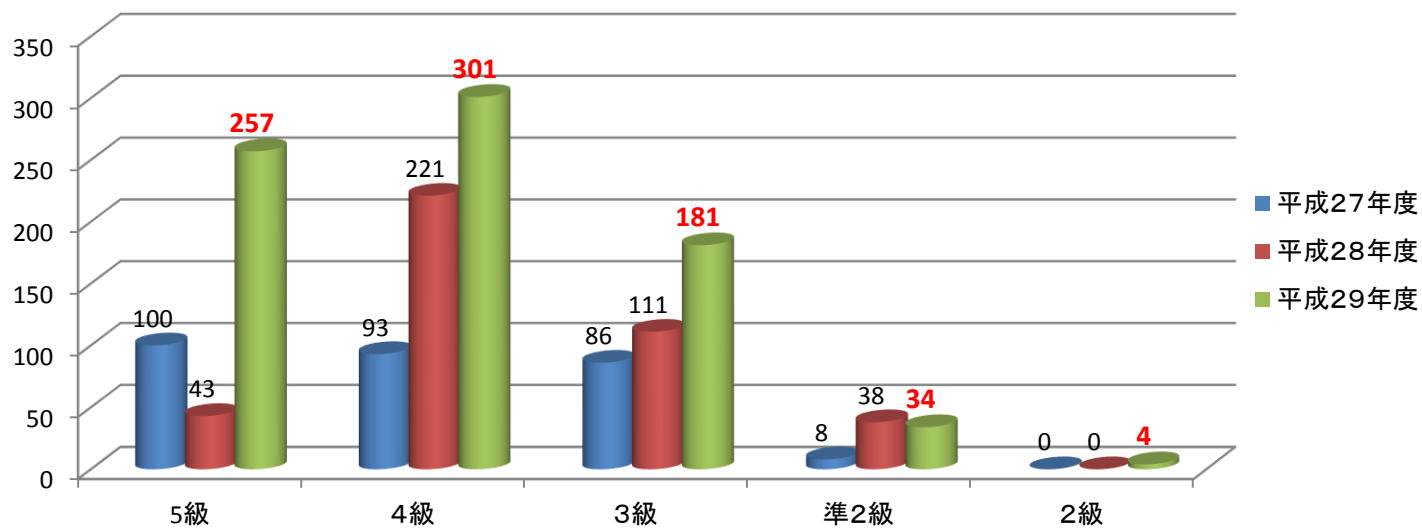
平成28年度(中学2, 3年生対象)

平成29年度(中学1, 2, 3年全学年対象)

◎受検料全額補助 1人 年1回補助

過去3年間の英語検定所持数の比較

	5級	4級	3級	準2級	2級	生徒総数	(人) 市費英検受検者	4級以上
平成27年度	100	93	86	8	0	1349	※支給なし	13.9%
平成28年度	43	221	111	38	0	1300	864 ※2・3年支給	28.5% ※受検料補助開始
平成29年度	257	301	181	34	4	1251	1209 ※全学年支給	41.6%
※今年度市費受検合格者数	230	207	113	18	4			4級以上所持数 / 生徒総数



市内中学生 英語検定所持率

市内1～3年 4級以上所持率		41.6%	市内全学年4級以上所持者 / 市内全員
市内 3級以上所持率		17.5%	市内全学年3級以上所持者 / 市内全員
市内2・3年 4級以上所持率		64.0%	市内2・3年4級以上所持者 / 市内2・3年全員
市内2・3年 3級以上所持率		24.0%	市内2・3年3級以上所持者 / 市内2・3年全員
市内1・2年 4級以上所持率		62.8%	市内1・2年4級以上所持者 / 市内1・2年全員
市内1・2年 3級以上所持率		8.3%	市内1・2年3級以上所持者 / 市内1・2年全員
市内3年 4級以上所持率		59.9%	市内3年4級以上所持者 / 市内3年全員
市内3年 3級以上所持率		36.1%	市内3年3級以上所持者 / 市内3年全員

H30年度 50%
目標

(3) 英語力アップ講座事業(中学生対象)

- ・市内全中学生の英語検定取得に向け、英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的に実施。

平成29年度は、各校1回(夏休み、9月)

平成30年度は、各校3回(夏休み、9月、1月)

◎3, 4級受検者を対象に集中講座を実施。

英語力アップ講座

【3級】2次試験対策



(面接練習)



英語力アップ講座

【4級】筆記試験対策



過去問にチャ
レンジだ！



2 ICT教育の取り組みについて

(1) 授業におけるICT機器の活用

① 一斉学習での活用

- ・教材の提示⇒教材提示装置、プロジェクター、電子黒板
- ・学習の視覚化・焦点化⇒タブレットPC、書画カメラ、デジタルハイビジョンカメラ(ぼうけんくん)

学校ICT機器①

タブレットPC(各校40台程度 計786台)



書画カメラ(各校3台程度 計45台)



学校ICT機器②

マグネットスクリーン(各校3個程度 計54個)



電子黒板機能付プロジェクタ(各校2台程度 計43台)



学校ICT機器③

デジタルハイビジョンカメラ ぼうけんくん
(各校3個程度 計54個)



ICTカート(各校3台程度 計54台)



外付けDVDドライブ(各校2台 計38台)



②個別学習での活用

- ・eラーニングを活用して一人一人に応じた
⇒「習熟度に応じた学習」「興味関心に応じた学習」「家庭学習」
- ・タブレットPCを活用した、インターネット等による調査学習の充実。

③協働学習での活用

- ・タブレットPCや教材提示装置、大画面テレビ、電子黒板
⇒他の児童生徒の意見理解、複数の意見や考え議論し、
協働学習の実践

市内小学校 タブレット型パソコンを 活用した授業

◇日向小学校(6年生 理科「水溶液」)



授業全体の様子(班で1台)



実験結果を撮影



調べた内容をノートにまとめています。



各個人で調べた結果(台風の様子など)をタブレットをとおして、大型テレビに映し、発表しています。

(2) 校務支援システムについて

- ・児童生徒の成績や個人情報管理強化
(データの一元管理による情報漏洩の防止)
- ・業務改善による教職員の多忙化軽減



教員がゆとりをもってひとり一人の
子どもに寄り添える